

四山鉱閉鎖への布石

二鉱体制についての解明交渉を要求

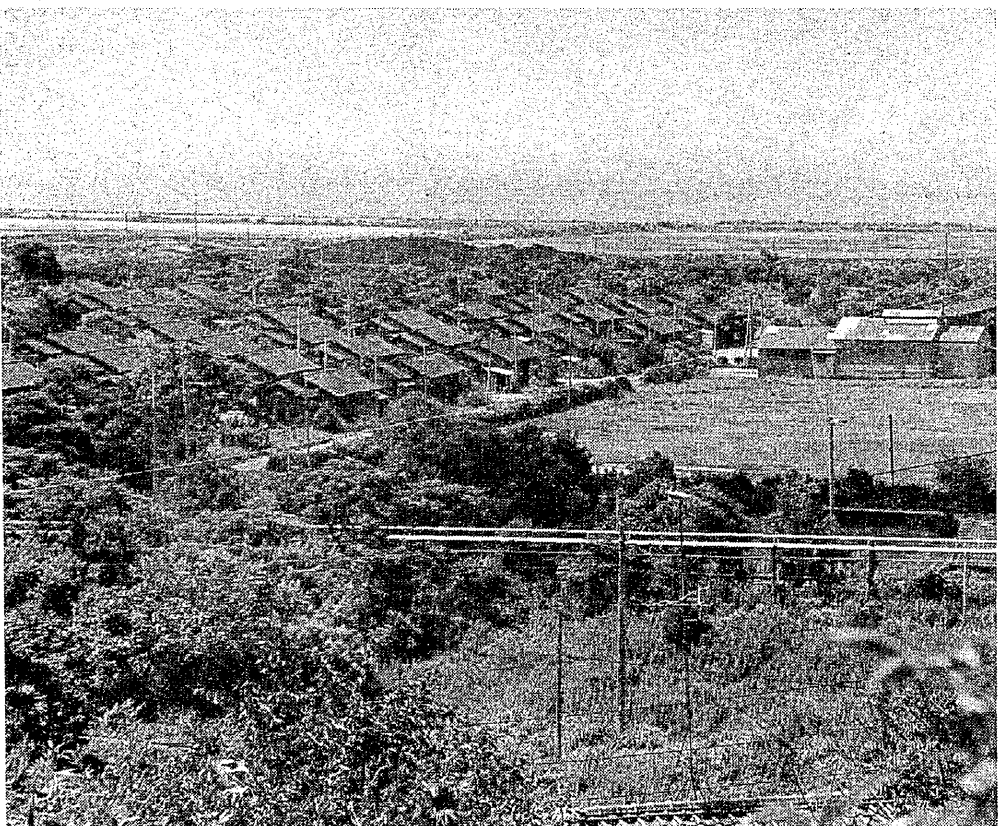


発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼 杉本一男
発行人
半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-0000569

急速な合理化へ職場の怒り

六月以降の希望退職集積進行に伴い、鉱間の配置転換など、三池での縮小合理化は急速に進んでいます。三池労組は、この合理化に反対して具体的に取り組んできましたが八月五日、会社側は十月一日から四山鉱を三川鉱に統合する二鉱体制について提案。組合側は具体性がないとして解明交渉を申し入れました。職場では「四山閉鎖だ」と、不安と怒りの声が高まっています。

「石炭つぎ」・「ナタレ縮小」
三池炭鉱では、前年度比百万トンの生産縮小に伴って四百八十人(直轄のみ)以上の希望退職者を(出)し、大量の鉱間配置転換が実施され、さらに今後個人能率を五十パーセント上昇させる合理化が急速に進められています。



12月末までの退去提案をうけた熊本県側の四山社宅。右側は浴場、その手前は四山グラウンド。

8月22日	執行委員会
22日	会社交渉、港務所交渉
26日	執行委員会
27日	炭労中央行動
28日	炭労中央行動
27日	第二十二回委員会
28日	地域分会長会議
29日	保安委員会
30日	主婦会定期総会
31日	本所生産会議
31日	執行委員会

申し入れ内容

- ① 四山鉱の坑内・外在籍者の職場配置計画について。
- ② 四山区域の終極時期および終極までの人員、生産、保安計画について。
- ③ 四山区域終極後の諸管理団体(人員、坑道、保安)について。
- ④ 四山鉱坑外施設の今後の計画について。
- ⑤ 終極後の撤収作業計画について。
- ⑥ 坑口統合後の四山区域の保安施設および通気計画について。
- ⑦ 受け入れ鉱・所の諸問題について。
- ⑧ 保安教育の内容と方法および取り扱いについて。

貯炭場、「再検討」せよ

— 四山社宅の全面撤去問題 —

八月四日、会社側は貯炭場に併せ新たな貯炭場を造成したいとして、四山社宅の全面撤去を提案しましたが、そのさい転居先については別途提案するとしていました。八月二十二日、今後維持する社宅として指定した上で受け入れ社宅について提示しました。

受け入れ社宅は、六十二年六月作成の「三池炭業所社宅計画」にも「集約化を前提にしたもの」で、それによつて現在の約六十戸の社宅のうち約二十戸を将来維持するとして、その区域が転居受け

雇用問題は深刻

離職者さらに増大傾向

砂川炭鉱の閉山、吉別、南大夕張、赤平各炭鉱の合理化などによる北海道での離職者は、七月末現在で二千五百七十七人に達していますが、就職できたのはわずかです。そのうち就職が決まっているのは二十人で、状況は深刻です。

金銭的にみても失業率は三・二パーセントと史上最悪を記録。そのうちアンケートをとった千六百六十八人について就職希望地を北海道内としているのは九十七パーセントで、雇用の少ない北海道はますます雇用不安が増大していきつつあります。

春闘交渉は九月初旬

中断している春闘(賃金・労災)がありまして、二面関連記事のように、引き取り補償・時間短縮交渉について八月五日、石炭各社から炭労に対し量問題の決着が八月末と予測されています。春闘交渉再開は九月初旬にずれ込むことになりま

地底

八月中に晴れたのは四、五日という(福岡)。梅雨が明けきらないうまま秋雨前線につながるのかと心配された異常気象。こればかりは天まかせといっても、それに連なる災害と物価の値上がりは庶民の小さな肩に。異常気象は気象ばかりではない。一兆五千四百億の減税で決着、マル優廃止に道を開いた国会も同様だ。審議らしい審議もないまま、真・か、闇、かはらないが、談合、が花ざかり。そのおかげでスピード国会が現出される。この減税上積み、やっぱり金持ち優遇でわれわれには無縁。貧乏人は浮かばれぬ。

防衛庁は「防衛白書」の発表について、それに基づいた防衛予算の概算要求を決めた。前年比六・二増の四兆円近い突出ぶり。一多枠外から予想されたことだが、「専守防衛」が完全に要質し、軍拡路線の定着化をねらう新段階に。エイヌ艦やOTHレーダーで、世界の大事に逆行してなにをしようとするのかな。

石炭特別予算の概算要求が難航している。難航といっても政策の枠組みの中の数字の修正で、前年比どれだけマイナスかを決めるだけとは情けない。石炭は売れなくても貯炭があれば、買い上げてもらえばよい。それも甘いが、それで当面はしのげても、石炭つぎは、は変わらぬ。問題は予算ではなく、やはり、政策だ。

「どうせ撤去なら、人より早く、いかに早く」社宅撤去をめぐってまたも動く。いかにどうなっていないはずなのにね。貯炭、貯炭といってきた「ガマン」を強要し、さらに合理化に協力させていく。国会もそうなら企業も同じ、その手のひらに乗せられて踊るのだから。この秋、胸に手を当て熱慮のとき。